

ダイナミックかつ繊細に はがね 鋼づくりの現場探訪

北海道から九州まで全国に16カ所ある新日鉄住金の製造拠点では、
今日も真っ赤な鋼からさまざまな製品が作られています。
今回は新日鉄住金拠点の最西端に位置する大分製鉄所を紹介します。



大分製鉄所

世界最大級の厚板や
自動車向け鋼板をつくる



厚板の圧延



アジアの主要都市に
近い好立地

大分製鉄所は1972(昭和47)年4月に第1高炉に火入れしました。約700万㎡の広大な敷地で熱延鋼板および厚板を生産しています。熱延鋼板は主に自動車の構造部材、鋼管用の素材、コンプレッサーや配電盤の部品など幅広い用途に使われます。厚板は世界最大級のサイズの製品をつくることができ、船舶用を中心に建産機や建材、橋梁などの構造部材に利用されています。大分は上海やバンコクなどのアジアの主要都市に近いという地理的好条件から、製品輸出の拠点ともなっています。

大分製鉄所では、世界最大級の炉容積5775㎡を誇る高炉が2基稼働しています。ツイン高炉には新日鉄住金の最新鋭の技術が導入されており、高級鋼の素材となる高品位の銑鉄を日々生産しています。



桜と保全林



熱延コイル

ふるさと

郷土の森づくり



全国の新日鉄住金の製鉄所には環境保全林が広がります。1970年代、大分製鉄所構内に苗木を植えることから始まった郷土の森づくりは、今では全社で約900ha(東京ドーム約190個分)という面積に及び、鳥や小動物が生息する豊かな森に成長しています。郷土の森はCO₂吸収源としての役割とともに生物多様性の確保にも寄与しています。

大分製鉄所



ホオジロ(名古屋製鉄所)



アオサギ(八幡製鉄所)



郷土の森づくり 1970年代の植樹の様子



キジ(君津製鉄所)



カモ(堺製鉄所)

名古屋製鉄所



ふれあい祭り 製鉄所を洋上より見学



ふれあい祭り 工場見学

地域の皆さんと共に生きる

大分製鉄所は建設以来の理念「O・O・O(災害・事故O、公害O、世界第1級の製鉄所)」のもと、環境保全を第一に豊かで持続可能な社会の基盤づくりに貢献しています。1971年に日本企業の先駆的な取り組みとして、ここ大分製鉄所で始まった「郷土の森づくり」により、所内には幅50m、長さ5kmの広大な環境保全林が広がり、多くの野鳥も生息する豊かな森となっています。

また、毎年4月に地域で行われる「城東春まつり」に合わせて、製鉄所「ふれあい祭り」を開催。工場見学や遊覧船から製鉄所を一望する洋上見学、お祭りを盛り上げるステージイベントなどを行い、大勢の来訪者でにぎわいます。

